

ワークショップ3

知的障害を持つ個人の「自己決定」を援助するとは？

—その目標設定と技術—

- 企画： 望月 昭・渡部匡隆（愛知県コロニー研究所）
 司会： 望月 昭
 話題提供： 井上雅彦（兵庫教育大学）
 山田岩男（名古屋市立滝川小学校）
 渡部匡隆（愛知県コロニー研究所）
 指定討論： 河合伊六（福山平成大学）

近年、障害の領域では、「自己決定」とか「本人の参加」ということが主張され、随所でその実現のための議論がなされています。「個人の選択」を前提とするという理念は、「最小制約環境の実現」といったテーゼのもとでかねてより言われてきました。この問題が、最近になって再びクローズアップしてきたのは、第一には、脱施設に代表されるようなマクロな環境設定についての議論が一段落し、QOLと呼ばれるような、個別の「障害者」の行動に注目する援助方法に目を向ける余裕が出てきたからと言えるかも知れません。また、これまで「権利擁護」という名のもとに行われてきた様々な援助・援護行動のやり方の中に、「パターンリズム」と言われるような周囲からの一方な「押しつけ」を含んでいたという反省によるものとも考えられます。

一方、「選択」とはスキナーの言を待つまでもなく、紛れもなく行動のひとつ (Choice is a piece of behavior) です。そして、これまでわが国の行動分析学でも、基礎から応用に至る広い領域において、他に先駆けて長年この問題に様々な角度から取り組んできたと言えます。それは、全てに通底する基礎領域での「選択行動」(choice behavior)の実験研究をはじめとして、より直接的には、「嗜好」(preference)の測定、あるいは選択場面を基本設定とした「要求言語行動 (mand) の学習」などの中で取り上げられてきました。

このワークショップでは、「自己決定」としての「選択行動」の問題について、その具体的な行動目標をどのように立て、どのような設定を用意し、またどのようにその結果を評価していくか、という基本的で具体的な問題について考えてみたいと思います。さらに、実際にこの「自己決定」について、それぞれの現実的な現場において、どのように取り入れていけるのか、どう発展させればよいのか、またそうした実践に対してどのような障害や問題があるか等の現実的な課題についても、実践的技術論という形で皆さんと検討してみたいということです。

兵庫教育大学の井上雅彦氏には、重度・最重度の障害を持つ子どもの「選択」について、その信頼性や要求言語行動の機能化の問題などの話題を提供してもらいます。名古屋市滝川小学校の山田岩男氏には、学校教育場面における「選択」の実践の現状と問題点などについて紹介してもらいます。愛知県コロニーの渡部匡隆氏には、授産所における職場の環境設定についての「要求言語」を引き出す実践研究を通して、目標設定や効果の測定の方法について紹介してもらいます。福祉・教育現場などの様々な実践を通じて、アイデアや意見をお持ちの方々も多いと思います。このワークショップは、発表者とオーディエンスが共同して自己決定についてのアイデアのデータベースを作っていくように発展させていきたいと思っています。指定討論には、長年にわたり行動分析的な立場から障害児教育に携わってこられた河合伊六先生に、教育現場などの問題点などを絡めて、「自己決定」という課題についての今後の展望を踏まえた討論をしていただく予定です。